

国際委員会(第25期・第4回)議事要旨

1. 日 時：令和3年2月22日(月) 14:00~16:00
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：高村委員長、佐野委員、白波瀬委員、荒井委員、後藤幹事、沖委員、
梶田委員、小池副委員長
(事務局)：市川国際業務担当参事官、国際業務担当室員

議 題

- (1) 国際委員会議事要旨(案)(第3回)について
委員長より資料の説明後、承認された。
- (2) 国際委員会運営要綱の一部改正について
事務局より資料の説明後、承認された。
- (3) 令和3年度代表派遣実施計画(案)について
事務局より資料の説明後、承認された。
- (4) 令和3年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(案)
について
事務局より資料の説明後、承認された。
- (5) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021について
事務局より資料の説明後、審議を行った。委員からはテーマ案が複数あげられたほか、25期3年間の傘となる大きなテーマを設定することや25期を見通して3年度分のテーマを予めある程度決めておくこと等の意見が出された。これら意見を踏まえ、今後委員長は各部等ともテーマについて調整し、テーマ決定後は、速やかに国際委員会に当該国際会議に関する分科会を設置することとした。
- (6) 二国間学術交流について
事務局より資料の説明後、審議を行った。委員からは、二国間交流については、日本学術会議の中間報告の中でも、ナショナルアカデミーである日本学術会議の役割として、各国アカデミーとの交流・連携強化が重要な柱となっていることを踏まえて考える必要があること、一方で、二国間交流を行う場合も、例えば戦略的に絞る、つまり交流する国数に上限を設ける

等、来るもの拒まずで全てに応じるのではなく、どの国とどのような形の交流をするかを主体的・意識的に検討していく必要がある等の意見があった。英国王立協会からの日本学術会議に対する二国間交流のリクエストを念頭に、現在の予算制約を踏まえ、具体的にどのような活動が可能か見極めつつ、今後も継続審議することとした。

(7) 国際活動の強化について

事務局からの資料の説明後、審議を行った。委員からは、学術に関する国際的ルールメイキングの場への会員等の参加拡大の必要性や、国際活動の成果例を最終報告書に記載してはどうか等の意見が出された。

(8) その他

委員長から、ISC 選挙委員会委員に原山優子連携会員が選出されたことが報告された。

以上